

一般質問

ここが聞きたい

町長等の執行者に対して、町政全般の事務事業等の執行状況や政策方針などを聞くことが一般質問です。

本山町長の今後の町づくり構想は



質問者
井上 栄一 議員

町長もこの第3回定例議会にて任期の半ばとなり、松田町長として6年が過ぎようとしています。自身で定められた多選禁止条例では、次回当選されるとすれば、任期計12年とすると残任期間は半ばの6年です。

6次総合計画も策定され、次の項目などについて

- (1) 新松田駅周辺整備事業について
- (2) 仲町屋・沢尻町営住宅用地について
- (3) 旧松田土木事務所用地の今後について

今後の6年間を以て、どのような構想・計画・考え方の下進められているのか、お伺いいたします。

A

まずは命を守る事業を優先に

回答 (町長)



(1) 新松田駅周辺整備事業については、権利者の皆様の想いや、町民の皆様のご意思を尊重することが、何より大切であると考えている。

(2) 仲町屋・沢尻町営住宅用地については、利用者がある土地活用及び売買等の可能性調査をスタートさせ、住宅地として有効的な活用が図られるよう取り組んでいく。

(3) 旧松田土木事務所用地の今後については、指定管理者への委託期間の5年間の事業の実施状況を確認し、それ以降の社会情勢や町の財政状況、

ひきこもりの方やご家族を孤立させないために



質問者
平野 由里子 議員

地は今後については、指定管理者への委託期間の5年間の事業の実施状況を確認し、それ以降の社会情勢や町の財政状況、

公共施設の個別の状況を確認しながら、あらゆる可能性を模索し、町益を第一に考え、総合的に判断した活用を行っていく。

内閣府は初めて昨年末に中高年のひきこもりについてサンプル調査をし、3月末に結果が公表された。それによると40〜64歳のひきこもりの方は全国で61万3千人と推定されるという。松田町のその年代の人口に当てはめると50人ほどいらっしゃることに。プライバシーに関わることなので実態把握は難しいと思うが、該当者があることを前提で取り組みが必要ではないか。

(1) 町ではどのような支援をしているか。より若

A

福祉課にご相談ください!

回答 (町長)



い世代対象のものと違う取り組みがあるか。

(2) これに関わる人材の養成や研修は行っているか。

(3) 「生きがいと居場所づくり創出」(町長の「鼓動」より)とは具体的にどう取り組むか。

(1) 若い世代の引きこもり事業については、県内4か所のかながわ子ども・若者総合相談センターに繋いでいる。そこにはひきこもり支援コーディネーターが配置され、必要な情報提供を行ったリ、専門機関と連携して対応を図っている。中高年層の場合、福祉課が相談窓口となり、そこに繋げるか、必要に応じて生活困窮の相談や、医療が必要な場合は医療機関に紹介する。

(2) 担当職員が、自殺対策や8050問題等の研修に参加している。

(3) ソフト面では様々な町民活動をサポートしていくこと、ハード面ではリニューアルした文化センターや、健康福祉センターの居場所としての機能を充実させることや、試験的運用を開始した福祉巡回バスで居場所までの足を提供することなどがそれにあたる。